デジタル社会推進実践ガイドブック DS-433

コアデータモデル解説書
住所

2022年（令和4年）3月31日

デジタル庁

|  |
| --- |
| [キーワード]住所、都道府県、市区町村、町字、アドレス・ベース・レジストリ、データモデル[概要]住所の情報をシステム実装する際に参照すべきデータモデルについて解説するガイドブックです。このガイドに従いデータ設計を行うことで、同じ設計規則に従うシステム間、分野間でのデータ連携を容易かつ正確に行えるようになります。また、データ設計を実施するコストも削減することができます。 |

# 住所のデータモデル

国内の住所を記述する場合のデータモデルです。住所についてはこれまで、都道府県、市区町村、町字含む丁目以降の３つに分割して記述することを推奨としていました。

一方で、令和４年より一元的な住所情報の管理を目的としたアドレス・ベース・レジストリがデジタル庁によって整備され、公開されます。この取り組みにより住所情報の町字レベルでの統一・整備が行われることから、住所のデータモデルもアドレス・ベース・レジストリとの相互運用性の観点に基づき、従来より細かい分割方法としています。アドレス・ベース・レジストリと紐づけることのできる町字IDを必須項目とすることで、定義や表記揺れがなく、全国で統一された住所情報との連携を可能とします。

そのため、住所の情報を新たに設計する場合は、アドレス・ベース・レジストリと相互運用できる町字IDの採用を強く推奨します。全国地方公共団体コードと町字IDを組み合わせることで都道府県、市区町村、町字までを特定することができ、残りの番地以下の情報および建物名等を組み合わせて住所情報を構造的に保存することができます。

既に住所のデータを持っている場合、連結表記に既存のデータを保存した上で、それとは別に住所データを分解して保存することを推奨します。都道府県、市区町村、町字など、住所情報を分解して保存することで相互運用性を確保し、後々にアドレス・ベース・レジストリとのマッチングを行いやすくします。住所情報を個々の項目に分割するツール（コンバーター）については、その必要性や開発方針について、引き続きデジタル庁で検討します。

住所情報の構造の詳細については「コアデータモデルパターン\_住所」の解説もあわせて参照してください。

必須項目以外は任意項目なので、用途に応じて項目を選択、あるいは独自項目を追加するなどのカスタマイズを行って利用してください。

## 住所データモデルの項目

住所データモデルの項目は表1の通りです。英語名や記入例などを含む詳細については、別添の「438\_コアデータモデル\_DMD.xlsx」を参照してください。

表1 住所データモデルの項目一覧

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 必須項目 | 項目名 | 説明 |
| 必 | 全国地方公共団体コード | 全国地方公共団体コード（6桁、都道府県と市区町村まで含む）を記載。 |
| 必 | 町字ID | アドレス・ベース・レジストリの町字IDを記載。 |
| 必 | 都道府県 | 都道府県を記載。 |
| 必 | 市区町村（郡） | 市区町村（郡名および政令市区名を含む）記載。 |
| 必 | 町字 | 町字を記載。 |
| 必 | 番地以下 | 番地以下（街区符号、住居番号または地番）を記載。 |
| 必 | 建物名等(方書) | 建物名、部屋番号、フロア名などを記載。 |
|  | 連結表記 | 都道府県から建物名まで連結して記載。 |
|  | 緯度 | 緯度（Geoコーダーで自動入力）を記載。 |
|  | 経度 | 経度（Geoコーダーで自動入力）を記載。 |
|  | 座標参照系 | 座標参照系（旧日本測地系、世界測地系などの種別）を記載。 |
|  | 座標参照系コード | EPSGコード |
|  | 国名 | 国名を記載 |
|  | 国コード | 国コードを記載（コード情報型） |
|  | 郡 | 郡名を記載。 |
|  | 市区町村 | 市区町村名のみを記載 |
|  | 政令市区 | 政令市区名を記載 |
|  | 大字・町 | 大字および町を記載。 |
|  | 小字 | 小字および番地補足（イ・甲・北など）を記載。 |
|  | 住居表示フラグ | 住居表示フラグを記載。 |
|  | 街区符号 | 街区符号を記載。 |
|  | 住居番号 | 住居番号を記載。 |
|  | 地番 | 地番を記載。 |
|  | 建物名 | 建物名を記載。 |
|  | フロア名 | フロア名を記載。 |
|  | 部屋番号 | 部屋番号（フロア番号なども含む）を記載。 |

### 住所文字列の分解と連結表記

住所文字列は以下の５つの要素に分解して記述します。

1. 都道府県
2. 市区町村
3. 町字
4. 番地以下
5. 建物名等(方書)

実際の住所を分解した例は以下のようになります。

1. 都道府県 ... 東京都
2. 市区町村 ... 千代田区
3. 町字 ... 紀尾井町
4. 番地以下 ... １番２号
5. 建物名等(方書) ... ガーデンテラス紀尾井町19F

一方で既存の住所データは一つの文字列として格納されていることが多いため、「連結表記」項目に元の文字列を併記することを推奨しています。

住所のデータ形式については「コアデータモデルパターン\_住所」もあわせて参照してください。

# 変更履歴

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 改定年月日 | 改定箇所 | 改定内容 |
| 2022年3月31日 | - | 初版決定 |